

## 【特別招待講演2】 第18席

## 『黄帝内経』の成立について

中国・北京 錢超塵

鍼灸医学の研究にとって、『黄帝内経』はその原論を述べたものとして、特別に重要である。しかし、『内経』は長期にわたる増補改訂を経ているため、その内容構成は甚だ複雑な様相を呈しており、訓詁、音韻、語法的にみても多様な要素がみられる。『内経』の医学思想を解説理解するためには、何よりもまず、その経文自体に則して内容を整理し、諸篇の形成過程、前後関係などを明らかにすることが急務である。『内経』の原形態の形成・構成、及び現在の形態に至る過程については、これまでに中国と日本双方で様々な議論があるが、その議論を一層発展させていくためには、なによりも『内経』の語言自体に則した研究が必要であると考えられる。『内経』諸篇中には特に顕著な語言的特徴を持つ篇や章句がある。それらについての断片的な指摘は過去にもあったが、これを総合的に勘案し、内容理解に役立つような論説が提示された例は少ないと思われる。

よって特別招待講演2では、錢超塵先生がご専門の訓詁、音韻、語法などの語言学的特質からみた『内経』の成立と構成（成書年代、原型、諸篇の前後関係、後代の付加部分、運氣七篇等）について、先生の最新の研究成果に基づいたお考えをおうかがいする予定である。

(文責：篠原)